

足助町における小学生の森林・林業 に対する関心について

岡崎営林署 田 中 員 之

岡崎営林署では、昭和58年から管内の小学生を対象とした森林教室を開催しているが、その小学生たちは、森林・林業に対していったいどのくらいの知識をもっているか、その意識、関心はどうだろうか、といったことについて調査した。

現在、国有林では森林レクリエーション事業や、国有林の一般への積極的な広報活動などが、国有林と地域社会の好ましい関係を保っていくために進められているが、森林教室の開催もこうした情勢をふまえての行動にはかならないわけである。

さて、小学生に対する意識調査であるが、今回はその対象を一応管内の愛知県東加茂郡足助町内15校の中から任意に7校を抽出し、5年生全員に対してアンケート調査を実施した。5年生を対象としたのは、さきに5年生の教科書（社会科）から、森林・林業に関する記述が削除されたことを意識しそこに焦点を当ててみた。

アンケート集約結果の対象となった児童たちの学校の位置関係は（図-1）のとおりである。

次にアンケートの質問事項はなるべく簡潔なものとし、児童の負担を軽減し集約の単純化を図った。

森林・林業に関するアンケート

森林や林業についてみなさんにおたずねします。次の質問の中で知っていることがありましたら○印でお答え下さい。

質問1. 森林は、木材生産のほかにどんな役割りをはたしているのでしょうか。

- () 山に水をたくわえる。
- () 山くずれやなだれを防ぐ。
- () 鳥や獣たちのすみかになる。
- () 空気をきれいにしたり、風や音をさえぎる。
- () 登山やキャンプなどレクリエーションの場となる。

質問2. 木材は私たちの生活の中で、どんなものに利用されているのでしょうか。

- () たんす。 () ピアノ。 () 紙。 () 家。
- () インク。 () 塗料。

質問3. 日本は外国から木材を買っています。その量は日本で使う木材の何%ぐらいでしょうか。

- () 10% ($\frac{1}{10}$)。 () 25% ($\frac{1}{4}$)。 () 30% (約 $\frac{3}{10}$)

() 50%(1/2)。 () 70%(約3/4)

質問4. 営林署という役所を知っていますか。

() 知っている。 () 知らない。

質問5. 営林署はどんな仕事をしているところを知っていますか。

() 知っている。 () 知らない。

質問6. 知っている木の名前を書いて下さい。

() () () () ()

質問7. 国有林へ行ったことがありますか。

() キャンプで行った。 () ハイキングで行った。 () そのほかのことで行った。 () 行ったことがない。

質問8. 山仕事(植林、手入れ、木材の伐り出し)を実際に見たことがありますか。

() 見たことがある。 () 見たことがない。

ご協力ありがとうございました。

アンケートの集約結果は(表-1)のとおりであるが、この中で特に注目されることを3項にまとめてみた。

- 1 森林の役割りのうち、国土保全、鳥獣保護、空気浄化については7~8割が認識しているのに対し、水源かん養と保護休養の役割りについては半数しか認識していない。このことは、近年都市部での水不足が時折深刻な問題としてクローズアップされている状況からしても、また、森林が水を貯え人間生活に供給しているという認識を深めるためにも、この結果は、今後PRの上で一つの課題となろう。
- 2 木材輸入量の割合については、31%の児童が正解だった。海を渡ってくる木材について教え、国産材の現状や国産材による木材の安定的供給の意義についても、今後さらに触れていかなければならない。
- 3 営林署や営林署の仕事については、8割以上が“知らない”と答えている。周囲を山に囲まれた児童たちではあるが、やはり国有林の占める面積(4%)や、地域の林業従事者の数(7%)からくるものかも知れない。しかしこうした条件はともかく、国有林・民有林を問わず、森林・林業に対する認識を彼等に広く理解してもらうためには、やはりこうした役所の仕事のことを、もっと知ってもらう必要があるのではないか。

以上、大まかな分析を行ったが、たった100名の意見でこの分析……、という意見もあるかも知れない。しかしこれが全小学校児童830人の中の100人、全5年生124人の中の100人ということであってみれば、こうした分析も今後森林・林業のPRを進めていくうえでの一つの指針となるのではな

いか。

ここで冒頭に少し触れた教科書から、森林・林業の記述が削除された……。という事柄について少し具体的に報告してみたい。

いま、東三河地区で使われている小学校高学年の社会科教科書の、森林・林業の記述をみると、5年生の教科書に1ヶ所だけ見ることができる。字数にして250字分の文章で「日本の国土・山地の利用」の単元の中に登場している。内容は森林の役割りについてまとめている。このため、小学校で教科書を通して、森林・林業に触れるのはこの250字の文章のみということになるわけである。5年生の教科書から、森林・林業が削除といわれるのは、5年生では大きな単元で「わたくしたちの生活と農業」、「…………と水産業」「…………と工業」とあるのに、「わたくしたちの生活と林業」という単元が出てこないことをいうのである。このほか、4年生では「安全な生活」と「郷土を開いた人々」の各単元で水害の話が登場するが、ここでは人為的な水害対策、治水といった下流の話しか出てこない。「森林と水」という形では出てこないのである。そして6年生では、日本史、政治、世界の中の日本、戦争、平和といった単元へと移り、内容は「自然」から遠ざかっていくというわけである。

以上、アンケート結果と教科書についてみてきたが、これからもこうした結果をふまえ、森林・林業に関する教育、あるいはPRをめぐるこれからの広報活動にも、私たちは目を向けていきたい。

図-1

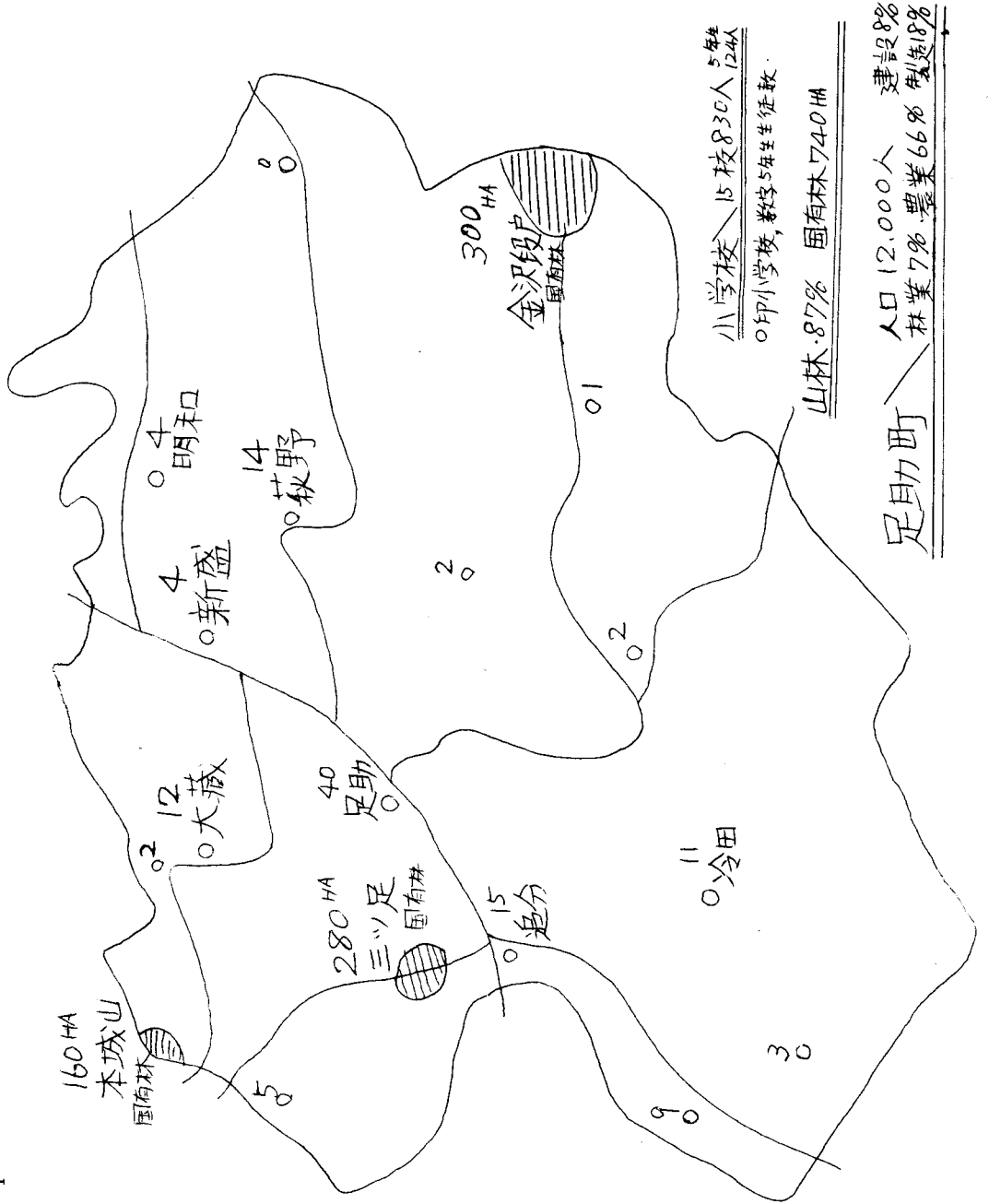


表-1 アンケート集約結果

小学校	足助	新盛	荻野	追分	明和	冷田	大蔵	計 100%
森林の役割	40	4	14	15	4	11	12	
水源保護	36	0	11	1		1	12	61
国土保全	36	4	11	11	3	9	12	86
鳥獣保護	35	3	11	11		2	12	74
空気浄化	37	4	12	13	4	7	12	89
保健休養	19	2	12	7		1	12	58
木材利用	40	4	13	15	4	9	12	97
すのこ	38	4	12	13	4	7	12	90
紙	38	4	7	10	4	8	12	83
紙家	39	4	13	15	4	9	12	96
木材輸入	5		5	2		6		18
30%	10	1	4	8	1	2	1	27
50%	7	3	2	4	3	1	11	31
70%								
営林署知っている	4	2	1	2	1		1	11
知らない	35	2	12	13	3	11	11	87
署の仕事知っている	7	1	1	2	1		2	14
知らない	31	3	11	13	3	11	10	82
国有林へいった	1	2		13		1		17
ハイキングで	2	1		1	1		2	7
その他で	5			1	1	3	1	11
行かない	28	2	12	1	2	5	9	59
山の仕事	32	4	11	12	4	9	11	88
見ない	6	0	2	3		1	1	13